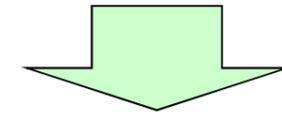


事務事業名	高速道路利用検討事業		所管部課	総合政策部	総合政策課	
事業目的	本市の北部を通過する北関東自動車道が持つ広域的なネットワークを活用し、地域の活性化や産業・物流における本市の優位性を高めるため、スマートインターチェンジ設置に向けた検討を行う。					
事業概要	IC形式：本線直結型、フルアクセス形式(上下線) 対象車両：セミトレーラー連結車					
総合計画での位置付け	施策	5 快適でうるおいのある環境で新たな人の流れをつくるまちづくり 2 人に優しい交通環境づくり 1 道路・橋梁の整備	類型区分	II		
根拠法令等						
備考	第二次下野市総合計画前期基本計画に明確に位置付けられている。					
事業年度別	年度計画	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	事業費			0千円	18,047千円	4,047千円
事業内容	対象年度内訳	1節 報酬 7節 賃金 8節 報償費 9節 旅費 11節 需用費 12節 役務費	13節 委託料 14節 使用料及び賃借料 15節 工事請負費 18節 備品購入費 19節 負担金補助及び交付金 20節 扶助費	18,000 22節 補償補填及び賠償金 23節 償還金、利子及び割引料 その他①(2・3・4・5・6・10節) その他②(16・17・21・24・25・26・27・28節)	(単位：千円)	
	財源	国県支出金		地方債・その他	一般財源 18,047千円	
その他(過年度実績・事業費詳細等)	<p>スマートインターチェンジ整備事業制度により、国が必要性を確認した箇所について、準備段階調査箇所を選定される。選定後は、地区協議会の開催、実施計画書の策定・提出し新規事業化される。</p> <p>事業化された後は、国からの整備計画の決定を受け、連結許可申請・許可の後に、実施設計・工事着工となる。</p> <p>事業費内訳 平成29年度 委託料 予備設計業務 10,000千円 現地測量業務 8,000千円 平成30年度 委託料 実施計画書作成業務 4,000千円</p>					

事業推進方針判断に際しての3つの視点		
必要性	A ○	第二次下野市総合計画前期基本計画に明確に位置付けられている場合、事業実施が求められるような社会情勢の変化、さらに国・県の制度変更により実施することが義務付けされた場合など。
	B	
	C	
緊急性	A ○	【継続事業の場合】事業進捗に対する影響等を考慮し、事業を休止した場合の影響が大きく、事業縮小の可能性が見当たらない場合など。 【新規事業の場合】財政負担以外において、事業を実施しなかった場合の影響が大きく、本事業以外の解決策が見当たらない場合など。
	B	
	C	
効率性	A ○	本県で平成34年度開催予定の第77回国民体育大会では、現在整備中である大松山運動公園グラウンドと同敷地の石橋体育センターが、サッカー・ハンドボールの会場予定地となっており、大会にはスマートICが本市の玄関口として活用されることにより周辺交通への負荷軽減を図ることとしております。また、全国から多くの来訪者(大会関係者・応援団等)が見込まれ、本市の知名度アップ等PRが期待されることから、大会前の供用を目指しており、設置の時期としては最適であり、緊急性は高いと思われます。また、予測不能である災害等の対応における交通網の充実が緊急課題でもあることから、緊急性をAとしました。
	B	
	C	
効率性	A ○	事務事業の質の向上に係る改善・工夫の見込みがあり、さらに経費削減、改革への取組が期待できる場合など。
	B	
	C	
効率性	A ○	現在、設置箇所について検討している段階であるため、最適な設置箇所選定として、近隣の交通状況・利用者の利便性・陸上自衛隊の出動ルートなどを勘案し、また、経費抑制についても検討しながら計画を遂行していくこととしております。
	B	
	C	



総合評価	○	継続実施
		見直し実施
		廃止

ETC専用

し も つ け し

下野市 スマートIC整備計画



栃木県 下野市

下野市のこと



- ◆ 下野市は平成18年1月10日、3町(南河内町、石橋町、国分寺町)が合併して誕生。
- ◆ 面積 74.59km²
- ◆ 人口 60,099人(平成28年1月末)
- ◆ 特徴 都心から約85km圏に位置し、JR宇都宮線の小金井駅、自治医大駅、石橋駅の3駅をもつ。市の中央部に自治医科大学と同附属病院が立地、最先端医療技術と地域医療が充実し、周辺には快適な住環境が広がる。一方で、国指定史跡下野薬師寺跡及び下野国分寺跡などの豊富な文化資源を有し、歴史文化薫る新生文化都市である。

人口データ:平成28年1月末 住民基本台帳人口

下野市の魅力



道の駅しもつけ
イメージキャラクター
「カンピくん」



日本一の生産量を誇る「かんぴょう」を添えて



大勢のお客様でにぎわう「道の駅しもつけ」



グリムの館



下野薬師寺跡(復元回廊)



自治医科大学

背景：天平の花まつり
(3月中旬～5月上旬)

※詳しくは、16・17ページに掲載しています。

スマートIC設置候補箇所



現況写真



下野スマートIC整備の目的 ～4つの柱～

I 地域経済の活性化

II 地域生活環境の充実

III 安全安心を支える地域づくり

IV 周辺交通の負荷軽減

I 地域経済の活性化

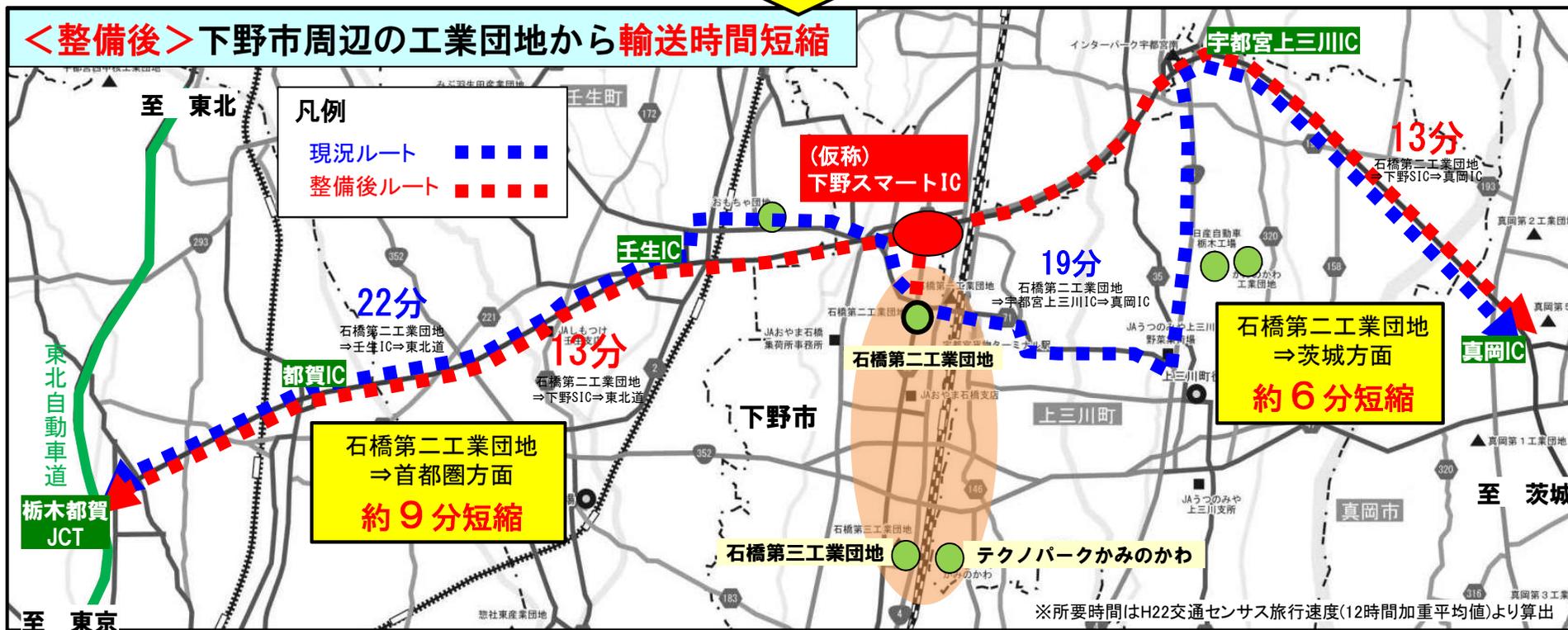
① 地域産業の活性化

<現況> 候補箇所近隣に工業団地が集積。首都圏方面へは下野市から離れた壬生ICや栃木ICを利用 (ヒアリング調査結果)

石橋第二工業団地(4社) 従業員561人
・首都圏からの原材料入荷時4台/日、出荷時1台/日が壬生IC利用 (印刷版材製造業)

石橋第三工業団地(8社) 従業員1,168人
・回答のあった工場は入荷10台/日、出荷17台/日すべて壬生ICを利用
テクノパーク上三川(24社) (分譲率87%)
・物流会社が群馬、埼玉、長野方面への搬送に28台/日栃木IC利用

(仮称) 下野スマートIC設置



地域産業の活性化

企業の進出促進

I 地域経済の活性化

②国内物流機能の向上

＜現況＞下野市と上三川町にまたがる宇都宮貨物ターミナル駅は**全国5番目の取扱量**。石油卸業者が「日本オイルターミナル」として一部利用。
首都圏・東北方面(東北道方面)は**壬生IC**、茨城方面は**宇都宮上三川IC**と隣接する町のICを利用(ヒアリング調査結果)

年間発着数

コンテナ 703,000t
(飲料水、家庭雑貨、自動車部品、食品等)
タンク車等 1,235,000t
(石油類、鉄道用碎石等)

主な輸送先

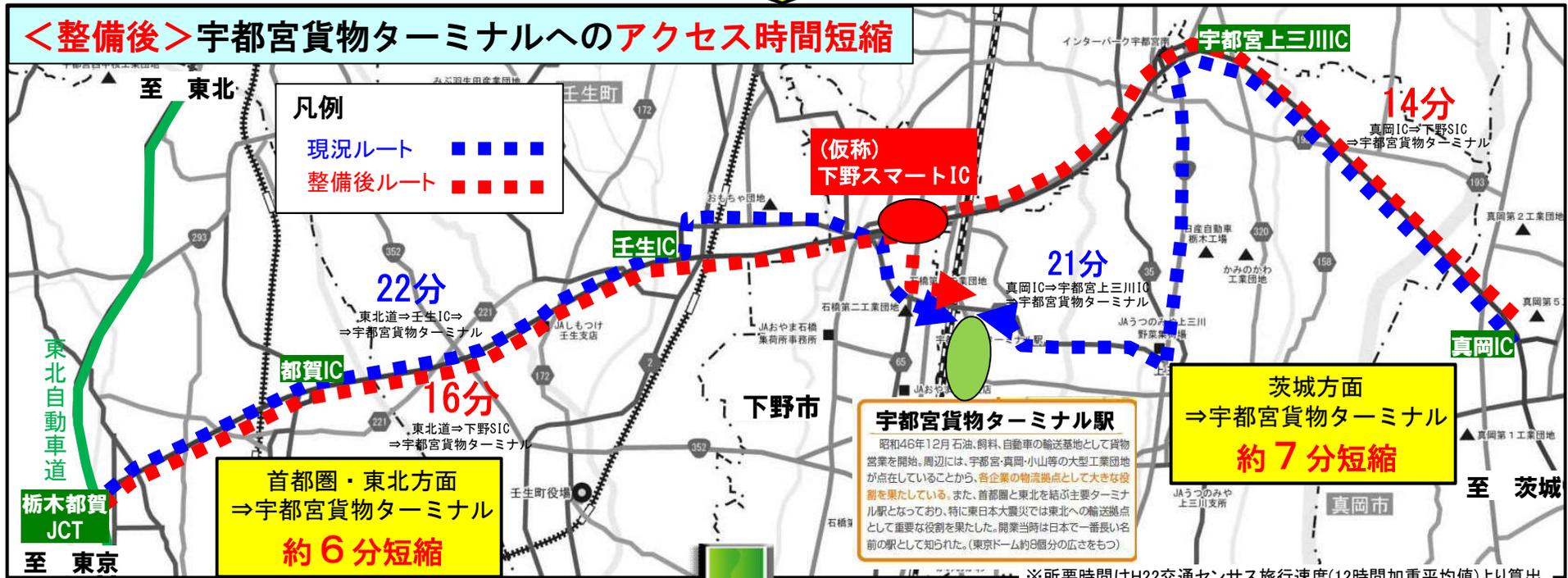
札幌、大阪、九州
県内(佐野、足利等)



宇都宮貨物ターミナル

入庫: 首都圏方面1台/日、県北方面5台/日が壬生ICを利用
出庫: 首都圏方面4台/日、県北方面5台/日が壬生ICを利用
日本オイルターミナル関係
入庫: 首都圏方面19台/日、県北方面8台/日が壬生IC利用
茨城方面6台/日が宇都宮上三川ICを利用
出庫: 首都圏方面27台/日、県北方面10台/日が壬生IC利用
茨城方面11台/日が宇都宮上三川ICを利用

(仮称)下野スマートIC設置



国内物流力が強化

企業と企業をつなぐIC

I 地域経済の活性化

③ 農業の活性化

<現況>

- 本市は**全国トップのかんぴょう産地**。他の野菜も有数の産地で**県外に(首都圏、東北)へ出荷**

品目	出荷量(t)	主な出荷先(県外)	備考
イチゴ	492	東京、福島	
かんぴょう	158	東京、北海道、千葉	全国1位
きゅうり	2,284	東京、青森、福島	県内1位
たまねぎ	2,430	青森、宮城、福島	県内2位
ほうれんそう	865	東京、京浜、青森、秋田	県内3位

- JA上三川野菜集荷所など、平均21台/日が**壬生ICまで一般道を利用して首都圏方面へ出荷**(ヒアリング調査結果)
- 「**歴史とロマンのかんぴょう街道**」を全国へ発信中だが、車での利用は壬生ICが出入口のため、かんぴょう直売店が並ぶ**石橋地区はルート外**。

歴史とロマンのかんぴょう街道

栃木県では、地域のおいしい「食」をテーマに、その地域の景観や歴史、文化など資源を組み合わせ、「10」の「とちぎ食の回廊」があり、そのうちの1つ。
かんぴょうを取り扱う販売店やレストラン、道の駅等を巡る「かんぴょうラリー」などのイベントを実施している。



(仮称)下野スマートIC設置



新たな販路拡大

6次産業の活性化

I 地域経済の活性化

④ 栃木国体の開催支援

<現況>

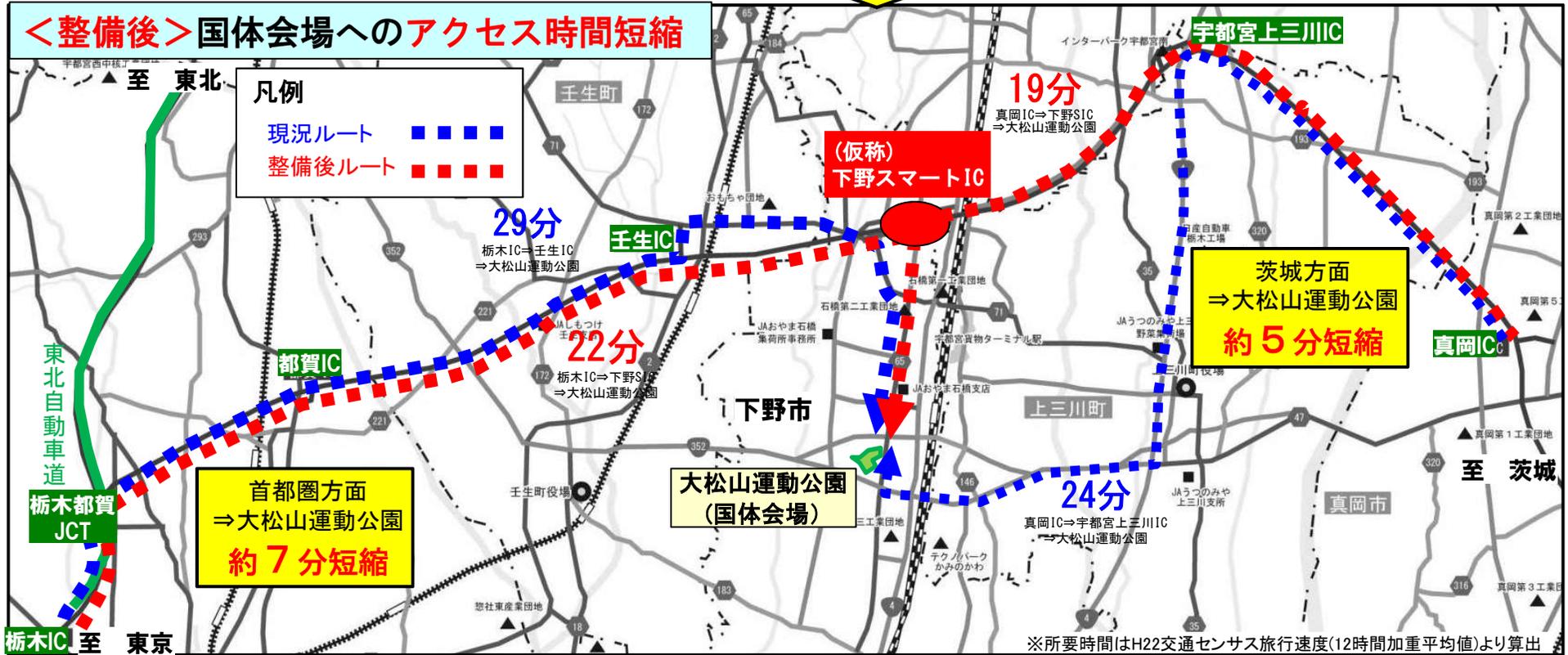
平成34年度開催予定の
国体会場が再整備中
(平成32年度供用開始予定)

スマートIC設置候補箇所まで約4km



(仮称)下野スマートIC設置

<整備後>国体会場へのアクセス時間短縮



選手団の円滑な移動を支援

国体後のスポーツイベント誘致を支援

I 地域経済の活性化

⑤ 高速道路を活用した観光振興

<現況>

壬生IC~宇都宮上三川IC間の北関東道沿線に**家族で楽しめる観光施設が点在**。

下野市内には**高速ICがなく周遊性に欠ける**

おもちゃのまちバンダイミュージアム
(年間来場者約5万人:H26年度)



グリムの森
(年間来場者約9万人:H26年度)



※グリムの館は年間約2.5万人

姿川アメニティパーク



<整備後>新たな観光周遊ルートが形成



(仮称)下野スマートIC設置

立寄り客増加によりさらなる観光振興

Ⅱ 地域生活環境の充実

① 高速道路利用環境の向上

凡例

現況ルート ■■■■■■

整備後ルート ■■■■■■

<現況>
 近接する人口集中地区では住みよいまちを目指し、都市再生整備計画進行中

・石橋駅周辺地区



・雀宮地区(第2回変更) (宇都宮市)



※所要時間はH22交通センサス旅行速度(12時間加重平均値)より算出



市街地の活性化

定住人口の増加

Ⅲ 安全安心を支える地域づくり

① 地域防災機能の強化

<現況>

石橋地区周辺は鉄道（JR・東武）や河川（姿川・田川等）に挟まれた地域であるため、

- 集中豪雨時等に東西の緊急輸送道路等が寸断する恐れがあり、国道4号に救援活動や救援物資の輸送を頼らざるを得ない状況
(羽生田上蒲生線：第二次緊急輸送道路)
- 鉄道アンダー部は道路冠水注意箇所
- 河川に近い低地は浸水想定区域

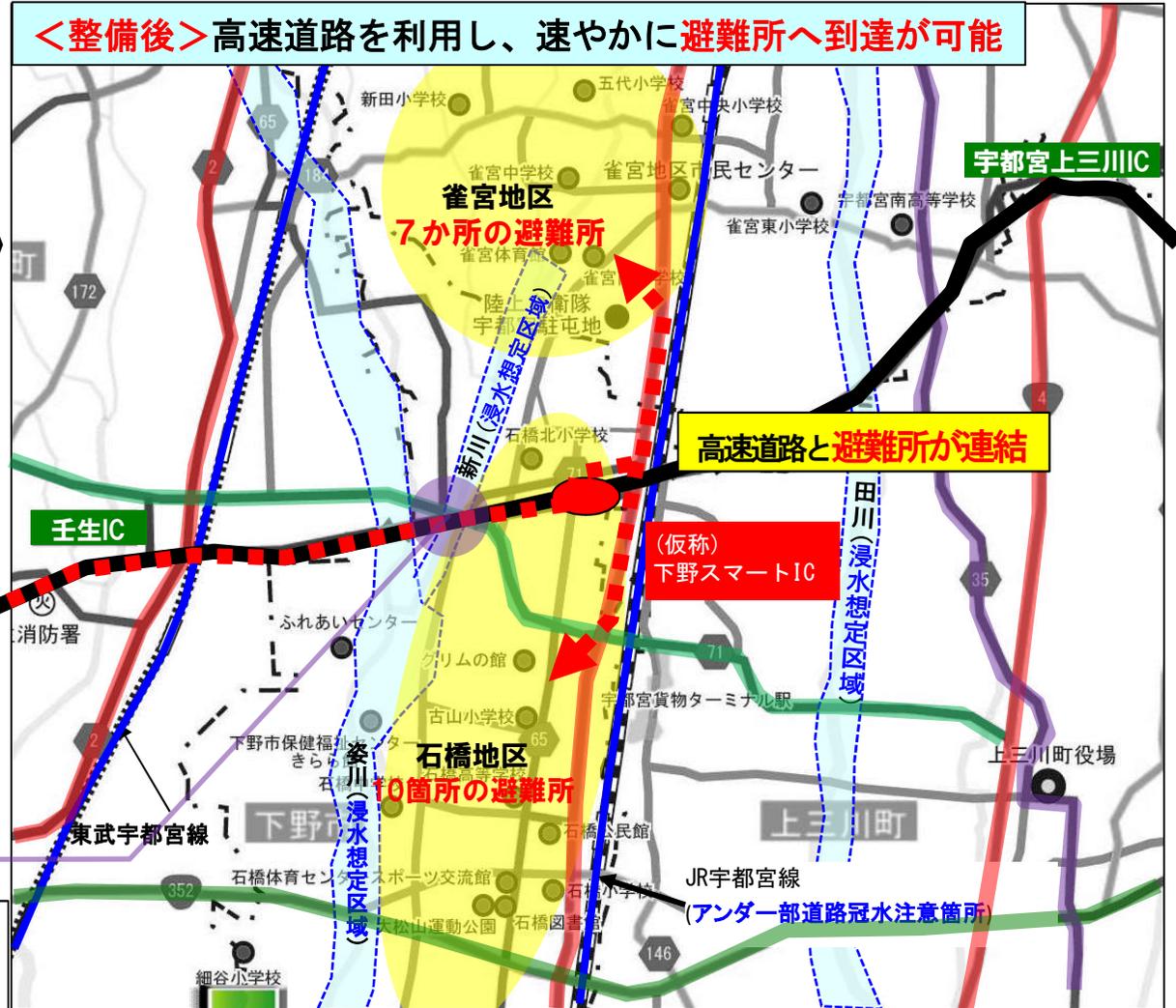


凡例		
避難所 ●	第一次緊急輸送道路	——
	第二次緊急輸送道路	——
	第三次緊急輸送道路	——

<整備後> 高速道路を利用し、速やかに避難所へ到達が可能



(仮称)下野スマートIC設置



災害発生時の救援活動・救援物資輸送の迅速化

Ⅲ 安全安心を支える地域づくり

②災害対応の迅速化



<現況>
 「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画(注)に位置づけ

陸上自衛隊宇都宮駐屯地…**広域進出拠点**
 ⇒地震発生後、被災地方面に向けて移動する際の各部隊の進出目標地点

日本オイルターミナル宇都宮営業所…**エネルギー供給拠点**
 (宇都宮貨物ターミナル駅構内)

(※)南海トラフに係る地震防災対策の推進に関する特別措置法(平成14年法律第92号)に基づく災害応急対策活動の具体的な内容を定める計画。

陸上自衛隊出動時には首都圏方面へは100%、東北方面でも約3割が壬生ICを利用

陸上自衛隊出動時の利用IC(過去5年間)

IC	首都圏・関西方面	東北方面	計
鹿沼	72	189	261
壬生	72	366	438
宇都宮	0	7	7
宇都宮上三川	0	27	27
計	72	589	661

(仮称)下野スマートIC設置



※所要時間はH22交通センサス旅行速度(12時間加重平均値)より算出

被災地への救援・救助活動迅速化

Ⅲ 安全安心を支える地域づくり

③救急医療への効果

凡例

現況ルート ■■■■

整備後ルート ■■■■

主要渋滞ポイント

<現況>

- 緊急医療機関が周辺に複数あるが、石橋地区の高速を活用した救急搬送少ない
(過去5年間実績56回)
- 宇都宮上三川IC～壬生IC間への高速出動時は宇都宮上三川IC利用を利用 (過去5年間で29回)
石橋地区へのスマートICに期待
- スマートICの整備により新たな救急搬送の利用を期待

石橋地区消防組合の声

北関東自動車道上的の災害出動に、当消防は壬生ICまたは宇都宮上三川ICから進入しています。石橋消防署からの出動時に、下野市にスマートICが整備されれば、現場到着時間の短縮が予想され、災害の初期活動が早急に着手できるのではないかと思います。

(新たな利用が想定されるエリアと病院)

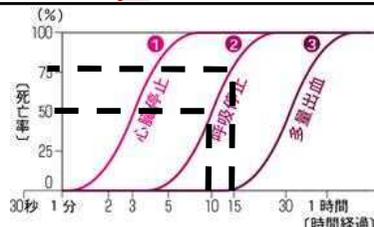
- 石橋地区から獨協医科大学病院・芳賀赤十字病院(真岡市)
- 石橋総合病院から管外の病院

<整備後> 緊急医療機関への搬送時間短縮



病院での適切な処置開始時間が早まり、生存率向上が期待

呼吸停止による
生存率30%向上



救命体制の強化

IV 周辺交通の負荷軽減

<現況>

石橋地区・雀宮地区から東北道方面へ向かう車両が壬生ICに集中し混雑が発生
(おもちゃのまち交差点:主要渋滞ポイント)

最大渋滞発生時



コンテナ車の渋滞待ち



H28. 1. 26 (火) 朝8時頃撮影

(仮称)下野スマートIC設置

<整備後>一般道から高速道路へ転換

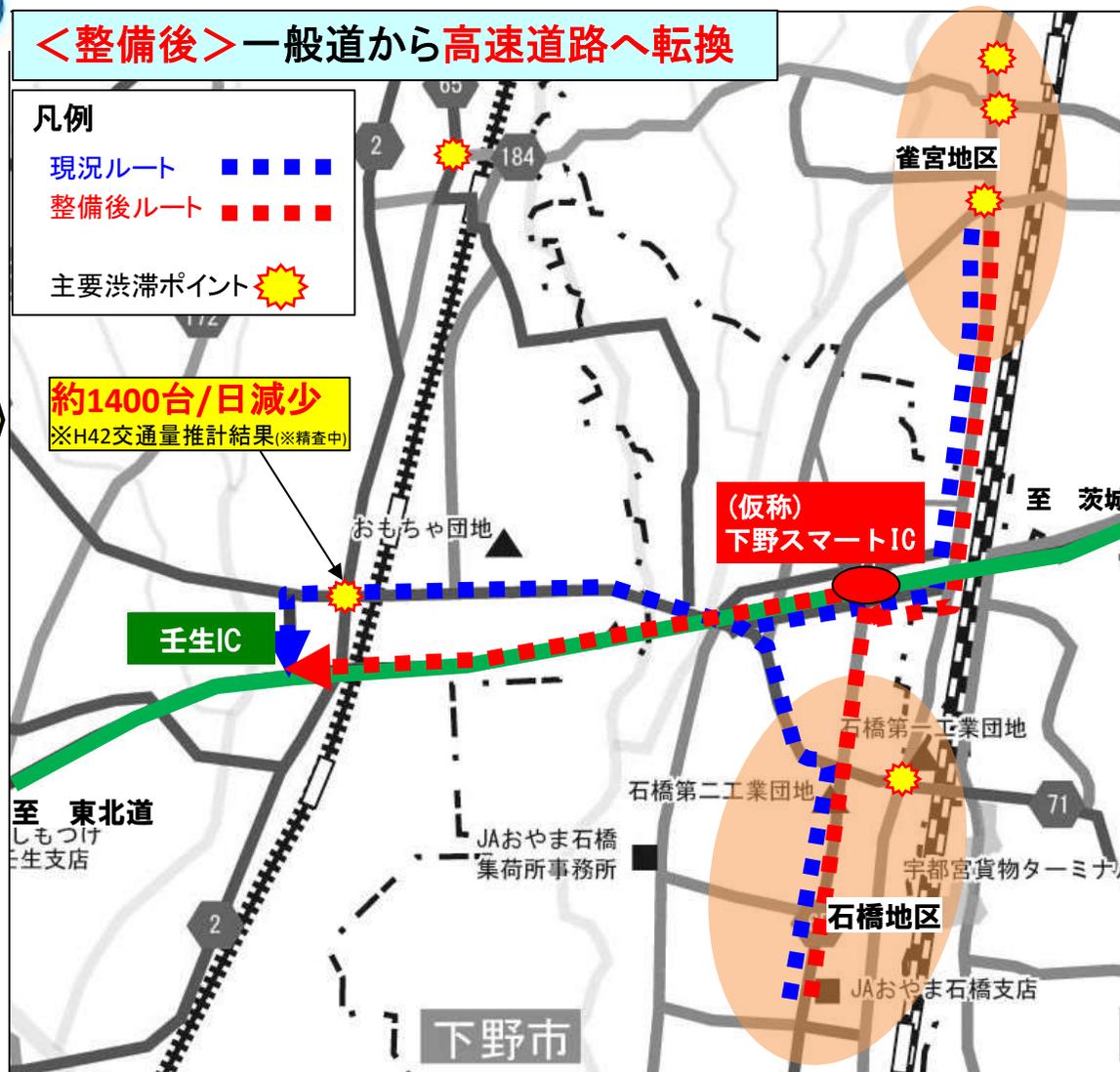
凡例

現況ルート ■■■■■■

整備後ルート ■■■■■■

主要渋滞ポイント

約1400台/日減少
※H42交通量推計結果(※精査中)



※主要渋滞ポイント:道路行政マネジメントを実践する栃木県会議

羽生田・上蒲生線等主要幹線道路の混雑緩和に寄与

